

## 就任挨拶

副会長

沼田 敏 晴



今年度より副会長を務めさせていただくことになりました，花王株式会社の沼田と申します。大変な重責を担うわけですが、正直申しまして十分にこの職責を果たせるかどうかあまり自信はございません。皆様のご指導とともにできるだけ務めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私は花王に入社以来、長らく研究開発に携わってまいりました。花王では「研究開発の成果を最大化し、特許としてその権利を獲得して事業に貢献することが研究員の最大の務めである」という方針に基づいて研究開発に取り組んでいます。この方針を徹底するために、知的財産センターが中心となり研究員に対しては入社時から継続的に知財教育を行い、知財の意識を高めると共に、日々の研究活動において強い特許網を構築する仕組みを形成してきました。そのために、研究開発部門の組織の中に知的財産センターを設け、知財部員は研究員と密着して活動を行っております。

知財戦略を推進するにあたり、研究開発を行っているリーダーの意識と申しますか、そういうものが非常に重要であると痛切に感じています。つまり、リーダーの意識の違いによって強い特許網を構築できるか、特許クリアランスに対する信頼性が得られるのか、大きな差になって出てきます。リーダーは研究開発の初期の段階から、特許マップをしっかりと描きながら、競合関係がどうなっているのかを踏まえて、他社との差別化要素をどこに求めるのか、どういう事業にしていくのかを真剣に考えなければなりません。つまり、リーダーは事業としてどうやって他社に勝つのか、そのためにはどのような技術開発を行うのかをにらんで研究テーマの方向付けを行うことが重要です。

一方で、研究員は自分の発明がどれくらい強い特許になるのか往々にして気がつかない場合があります。そういう意味では、特許の明細書の書き方は一歩誤りますと、権利化ができないどころか競合相手にヒントを与えることにもなりかねません。知財部員の役割は、その技術を正しく評価し、その発明を最大化して知財の権利を広く、確実に取得して事業に貢献することが重要ではないかと思えます。

本日もいろいろなお話がありました。やはり日本の企業の中にはグローバルな事業展開が、非常にうまくいっている会社もございますけれども、コンシューマ製品を扱う企業は苦戦を強いられる状況が続いております。私は、日本は技術としてはかなり強いものを持っていると思っておりますけれども、特に私どもコンシューマ製品の開発においては、各国の人々の目線でその技術を高い事業競争力のある商品にしていくことがまだまだできていない。また、関連する知財権がきちっと押さえられていないと感じます。そういう意味で、本日の皆様方の活動計画等は非常に時宜に合致しているのではないかと

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

と思いますし、今後、グローバルな競争が高まるにつれ技術が多様化していく中で知財権をどう獲得していくのが益々重要になると思いますので、ぜひ知財協の活動を活発化させていただきたいと思います。今後少しでも皆様方のお力になればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

